

シリーズ
タンチョウ
Vol. 362

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

松 永 新
〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



「タンチョウから始まる野鳥保護」

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリに新しくレンジャーとして着任した松永新（まつなが あらた）です。苫小牧市から鶴居村に引っ越してきてもうすぐ1カ月経ちます。この1カ月で鶴居村に対して抱いた印象を一言にすると、「広い」です。視界を遮る高い建物や大きな山がなく、空がとても広く見えます（星空がきれい！）。またどこまでも広がる丘陵や湿原も広々としたという印象を与えます。

タンチョウが絶滅を免れ、鶴居村で命をつなぐことができたのは、この広大な自然環境があったからこそだと思います。そして個体数をここまで増やすことができたのは村民の力があったからです。農家の方々がタンチョウに給餌することがなければ、現状まで回復することはなかったでしょう。

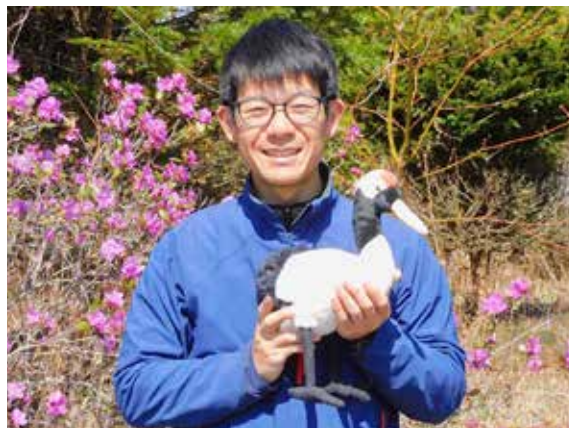
さて、サンクチュアリ内のネイチャーセンターでは、冬期開館中にたくさんの来館者と話をする機会があります。そして絶滅寸前まで追い詰められた過去、個体数を回復させてきた保護活動の歴史、農業被害など人間との軋轢が発生している現在など、タンチョウの様々な側面を伝えて、理解を深めてもらい、保護を支援してくださる人たちを増やしていく活動をする施設がネイチャーセンターです。ここでの仕事はとても難しいですが、やりがいに溢れています。

タンチョウ保護の支援者を増やす仕事にやりがいがあるのは間違いないのですが、私はそれだけで終わりたくないという思いを持っています。タンチョウについて知ったことをきっかけに、さらに視野を広げ、来館者が他の野鳥の保護についても興味を持ってほしいと願っているのです。そうなるように来館者とのコミュニケーションの取り方を工夫するのもこの仕事のやりがいの一部だと思いますし、そうすることがシマフクロウやチュウヒなどタンチョウ以外の野鳥の保護活動にも取り組んでいる日本野鳥の会の職員としての私の使命だと考えています。

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリがタンチョウにとっての聖域であり続けるように努力を重ねていきます。同時に、来館者がタンチョウを観て、学んで、それをきっかけに他の野鳥の保護についても興味を持っていただけるように、この場所を発展させていきたいです。鶴居村の空のような広い心と視点を持ち、タンチョウをはじめとした野鳥保護を支援してくださる人が増えていくと良いなと思います。



タンチョウが飛ぶ鶴居村の広い空が好きです



松永新です